

工場のIT化で先進的な生産性向上に取り組み 新たな分野への展開に経営資源を振り分ける

文房具やナースコールの部品などを中心とした、プラスチックの射出成形を主とする企業。代表取締役社長自ら、工場のIT化を推進しており、タブレットを活用した社内コミュニケーションツールの導入や、製品検査部門へのAI搭載の検査機の導入など、生産性向上に向けた数々の先進的な取組を行っている。社内のデジタル化を進めることによって生じた人材の余裕は、新素材による製品開発や金型製作など、新たな分野への展開のために活用している。

所在地 群馬県富岡市宇田22-2
電話/FAX 0274-64-5252/0274-64-1094
URL <http://www.tsuchiya-gousei.com/>
代表者 代表取締役社長 土屋 直人

設立 1972年
資本金 1,000万円
従業員数 45人



筆記用具の製造から家電部品、そして自動車部品の受注へ

同社の強みであるプラスチックの精密加工技術を、新素材を使った製品加工に応用し、高精度部品の量産体制を構築。さらに、これまで行っていた汎用プラスチック部品よりも利益率の高い、スーパーエンジニアリングプラスチック部品の受注を皮切りに、今後は自動車向け製品の受注に向けて、デジタルデータを活用した取組を進めている。自動車向け製品に求められる、さらに高度なトレーサビリティ・品質保証の確保を目指す。デジタル技術による品質の見える化により、メーカーからの各種要望・スペックに的確に応えていく。



ボールペン オリジナルデザイン

IoT活用により生まれた現場の見える化と、技術開発への取組、生産性向上

金型や機械にQRコードを貼付し、タブレットで読み込むことで、金型の清掃等の作業状況、機械の稼働状況を確認できる仕組みや、機械のマニュアルや熟練者の作業風景を確認できる仕組みを構築。工場全体の作業状況の見える化によって、社員は自身の作業効率を認識でき、管理者も適切な人員配置を考えることができる。これによって業務の効率化、生産性向上が進んでいる。また、生産性向上で生じた人材等の余裕は、技術開発・外部連携へ振り分けることで、さらなる生産性向上に向けてサイクルを回し続けている。



社外からのリアルタイム監視

メイドインジャパン品質とPEEK素材を活用した新分野への展開

同社の射出成形技術は、高品質・高精度な商品を提供することができるため、国内外の筆記用具メーカーから、長年にわたって絶大な信頼を得ている。さらに、従来より培ってきたプラスチックの精密加工技術を生かし、次世代プラスチック素材「PEEK」の試作加工に取り組んでいる。家電メーカーのモーターにも採用されるレベルの高い精度を求められる部品の量産に成功した。同社は、高精度部品の試作・量産にこそビジネスチャンスが眠っていると考え、積極的に難加工素材の試作に取り組む。



先端の射出成形機のラインアップ